

報告：原発問題をめぐる全体状況（12月）

@第103回脱原発八千代ネットワーク定例会

2021年12月25日 川井康郎

1. フクシマの状況

- (1) 11/17 東電はALPS汚染水の海洋放出に係わる放射能影響評価報告書を公開し意見募集を行なった。これは海洋拡散シミュレーションによるものだが、前提条件の不確かさ、年度蓄積の無視、影響範囲の狭さ、有機トリチウムの影響無視など不備が甚だしい。
- (2) 12/21 東電は、放出計画を規制委員会に申請。県漁連は約束違反に不快感を表明。更田委員長は放出時期について、今後の規制委員会による審査、地元理解。準備工事等を考慮すると2023年春開始は困難との見解を示した。
- (3) 11/26 東電は8月に続いて地下2.5mでの凍土壁の局所的な融解を発表。汚染水の発生増加が懸念される。12/13、当該部分に鋼管8本を打ち込み。
- (4) 12/8 復興庁が行なった双葉町民意調査によると、来年6月の帰還開始に対して「町に戻らない」は60.5%と。避難先での生活基盤が確立し、主な関心は家屋解体や土地処分と。

2. 原子力規制と再稼働の動き

- (1) 広島高裁仮処分（20年1月差止め決定、3月取消）、制御棒トラブル、特重施設未完成等により約2年間停止していた伊方③が12/2に再稼働した。川内①も定検を終えて12/18に再稼働。現在稼働中の原発は大飯③④、高浜③④、玄海③④、川内②を加えた9基。
- (2) 柏崎刈羽6号機の大物搬入建屋の杭が中越沖地震の影響で損傷していたことが発見されたことに関連し、未点検の杭が計1800本以上あることが判明。東電は「今の時点では問題ない」としているが今後の対策未定。

3. その他のトピック

- (1) 12/4、GE日立ニュークリア・エナジー社はカナダの電力会社から小型モジュール炉（SMR）を受注したと発表（BWRX-300を4基）。2022年末までに許可申請、2028年完成を予定。受注額は非公表。
- (2) 12/18 台湾でいったん建設中止が決まっていた第四原発の稼働に関する住民投票が行なわれ、賛成380万票、反対426万票にて廃炉が決定。第一～三原発は2025年に向けて順次停止予定。
- (3) 国内で震度4～5規模の地震が相次ぐ。11/1 茨城、11/11 宮古島、11/21 東京、12/5 山梨・和歌山、12/9 トカラ列島十島村・・・。また内閣府は12/21に日本海溝・千島海溝沿いM9超巨大地震の被害想定を発表。



<以上>